

ダイヤモンドカップ

3歳・ダート1800m M1
5月5日 (祝・火) 盛岡競馬場

昨年の優勝馬・シーソーゲーム



JBC協会協賛 HITスタリオンシリーズ／みちのく爽やか杯

第46回 ダイヤモンドカップ (M1) (ビッグアーサー賞)

盛岡競馬場／3歳・東日本交流・ダート1800m

5月5日 (祝・水) 第11競走 17:30発走

ダイヤモンドカップは1981年に旧4歳の重賞として創設。一時期特別競走になり1997年にメイセイオペラが勝った時も特別競走でしたが2000年に重賞に復帰。2006年には『ダービーウィーク』設定に伴い「岩手ダービーダイヤモンドカップ」となりました。2019年からは復活した東北優駿に「岩手ダービー」を譲ったものの一貫してシーズン前半の3歳の重要な一戦として行われてきました。2024年、新しいダート三冠体系誕生に伴って東日本交流競走・東京ダービー指定競走となり、全国のダート三冠路線の中でのカギとなるレースに位置づけられています。

■ゼウスシルエット(牡3 水沢・板垣吉則厩舎)



2歳9月のデビューから兵庫で戦い続けた。転入前の3戦は地元雄・ゴッドフェンサーに阻まれてはいるものの、それを追う2番手勢力の中では一進一退しつつも上位に食い込み続けている。勝ち星の数は二つだが一連の戦いの中身は濃いと判断すべきだろう。今回のカギはやはり初コース。初戦から克服してくるようならこの先の展望も広がるはず。

調教の動きは悪くなく感じます。状態も悪くないと思いますがなにぶんこれがこちらでの初めてのレース。どれぐらいやれるか？まず走ってみてからですね。(板垣吉則調教師)

■ササキントサブロウ(牡3 盛岡・飯田弘道厩舎)



前走・ネクストスター北日本では5着。その前の戦いからは着順を下げた形にはなったが、上がり3ハロンの脚はメンバー中2番目、岩手勢の中では2番手で掲示板に食い込んだのならひとまず及第点と評価していい。一ヶ月ほどの間隔を取りながらの臨戦過程もあって状態面に下降感はなくここでもこれまでのような走りは期待できる。“もうひとつかも”と陣営が評価する盛岡戦を乗り切って今後に繋げていきたいところだ。

月イチ間隔でレースに挑めていて具合は変わりなく良いです。距離やコースはちょっと課題かもしれませんが、いつも通り自分の競馬をして少しでも上を…ですね。(飯田弘道調教師)

■レジェンドバローズ(牡3 水沢・菅原勲厩舎)



地元トップクラスの素質馬が帰ってきた。昨年7月の新馬戦から8月のビギナーズカップまで無傷の3連勝、2着馬につけた着差の合計は21馬身。そのビギナーズカップではのちにネクストスター盛岡を制したラウダーティオを寄せ付けていない点からもこの馬の力量のほどがうかがえるというものだ。残念ながらそこで戦線を離脱、8ヶ月ほどの休養を経ていよいよ復帰戦となる。いきなり過大な期待をかけるのは避けるべきだが、どんな3歳初戦を見せてくれるか？注目の存在なのは間違いない。

帰厩前は牧場で乗っていて、こちらには3月末に戻ってきました。身体はひと回り大きくなっています。今回は休み明けですし、まずは次回に繋がるレースをと思っています。(菅原勲調教師)

■シーテープ(牡3 大井・佐野謙二厩舎)



デビューした門別では7戦3勝の成績を残しつつ重賞では勝ち星がなく終わったが、ゴッドバロックやエンドレスソロウ、スペシャルチャンスといった強豪達と互角以上に渡り合っていた内容は実に濃密。南関に転じて4連勝で重賞制覇となったのも積み重ねてきたものを思えば当然かもしれない。「若駒が持つ課題を一つ一つクリアしながら馬の“ブレ”を無くしてきた」と佐野調教師。成長の階段をさらにひとつ昇るべく、敢えて選んだ遠征競馬もクリアして見せてくれるだろう。

中間は順調に疲れも抜けて予定通りの調整。この時期の3歳馬はいろいろ課題を持ちながらだと思いますが、この馬も課題をクリアしながら結果が付いてきている。もっと良くなる馬だと思っています(佐野謙二調教師)

■フォースメン(牡3 水沢・菅原勲厩舎)



南関東で5戦2勝の戦績を残してこの春岩手にやってきた本馬。移籍を挟んで3連勝はもちろん見事だが、前走での2着以下を大差で置き去りにした勝ち方は素質の高さを遺憾なく発揮した、掛け値無しに強いと言えるものだった。今回はここまで比べて相手強化になるが、その前走の強さが菅原勲師のいう成長分だとしたら…。経験豊富な遠征勢とも渡り合えるような戦いを演じてくれるのかもしれない。

前走が強い勝ち方。ここは相手強化になりますが、南関東時代よりは馬が凄く成長している。素質的にもひけは取っていないと思いますね。(菅原勲調教師)

■アウトザロー(牡3 水沢・千葉幸喜厩舎)



デビューは昨年7月のJRA小倉、芝1200mが舞台だった。旧地では芝・ダを行き来しつつ戦っていたが岩手に転じてからはダートで2連勝。これで方向性が定まった印象がある。前走はフォースメンと同日・同距離で戦っており、時計比較ではわずかにあちらに譲るが戦いぶりは遜色ないと感じさせた。地方3歳牝馬戦戦を席卷するアンジュルナを出した父Tiz the Lawなら距離延長にも対応できるだろう。

ここまでは良い競馬をしてくれていますが今回は一線級のメンバーが相手。ここでどういう走りをしてくれるか？今後に向けて良いレースを期待しています。(千葉幸喜調教師)

■ティーズアライト(牡3 門別・小野望厩舎)



岩手にはこれが3度目の登場。前走のネクストスター北日本は水沢だったが盛岡でも南部駒賞を勝っており、今回の遠征もいまや通い慣れた道といえるだろう。その前走では先行及ばずの2着だったが勝ったゴッドバロックがのちに門別の一冠目・北斗盃を勝ったことを思えば評価はむしろ高まる結果。距離には十分な経験があるしコース経験も後押ししてくれるはず。ここでも自分の競馬を貫くのみだ。

前走後は外厩調整を挟みながら調教してきました。距離はこなせると思っているし盛岡も勝っているので大丈夫。あとは極端に馬体が減ったりしていなければ。(小野望調教師)

■アゲハシンワ(牡3 川崎・秋山直之厩舎)



自身久しぶりの勝ち星を手にした前走、勝ち方としては僅差だったが後続の追撃を凌ぎ切った勝利はしぶとさを感じさせるもの。確かに状態が良くなった故のあの勝ち方だっただろう。その前走は1400m戦、今回の1800mに懸念はないか？と感じるが秋山師は「無い」という。「前走は手頃な番組がなくて出走した距離。オーナー共々元々マイル以上を使ってみたかった馬なんです。今の状態なら布林カーも外して挑めるでしょう（秋山師）」。成長した姿を盛岡で見せる。

前走を勝って状態は上がっていると思います。追い切りでも布林カー無しで集中して走っていたのもう一段上がっているのではないかと。距離もむしろこれくらいが良い馬だと考えていますよ。（秋山直之調教師）

■ジェイエルビット(牡3 水沢・佐々木由則厩舎)



前走のネクストスター北日本では逃げ粘るティーズアライトをあと少しまで追い上げる3着に食い込んで見せた。同厩にセイクリスティーナやディオニスといった重賞勝ち馬がいるためにちょっと影に隠れた感がある本馬だが、前走を見てもやはり力がある馬なのは間違いない。距離は対応できるだろうが軽い馬場の高速決着になるとやや不利なタイプ。盛岡開幕初日の不良馬場から本番までの間にどこまで馬場が回復するか？乾けば乾くほどこの馬に有利になるはず。

前走後も状態は変わらない。僅差の3着だった前走からすれば前走で戦った相手とであれば十分にやれると思います。極端に時計が速い馬場よりは良馬場がいいね。（佐々木由則調教師）